



# 花き 花卉の栽培管理について

営農指導課 宮木



## ○花卉全般

台風が発生する時期となりました。事前にハウスバンド等緩みの確認、露地では杭の補強やネット位置の確認をお願いします。また、排水対策及び降雨後の殺菌剤処理を行ってください。これから作付される圃場では、積極的に土壌分析を行い適正な施肥を心掛けてください。

## ○シェード菊・露地菊について

仕上げの時期ですので側枝の整理・Bナイン処理等の遅れがないように早めに作業を行ってください。また、花の膜切れ前までにヨトウムシ、アブラムシ、スリップス等の防除を徹底し花への混入がないように心掛けてください。出荷に際しては、午前中の早い時間帯に採花を行い、前処理剤の徹底をお願いします。

## ○秋菊について

高温により、定植後の苗立枯れ等多くなってきます。定植前から遮光を50%程度行い十分に灌水し、できるだけ地温を下げてください。また、深夜電照になっていますので電照の点け忘れや切れ、落雷等に注意してください。

## ○洋花について

彩花後の伸長が早く整枝が難しい時期かとは思いますが、放っておくと上位等級が取りにくくなるだけでなく、コナジラミやハダニ等の微小害虫の防除が困難となりますので、なるべく早めの整枝を行ってください。



# 園芸 アールスメロン・苺の管理について

営農指導課 猪原



## 《アールスメロン》

### 1. 播種期～定植期

育苗は、セルトレーによって育苗日数が異なりますが、暑い時期は子葉2.5枚～3.5枚の適期苗を定植して下さい。

コナジラミの増える時期です。害虫防除に努めて下さい。定植後は活着促進の為に株元灌水を2～4回程度活着度合いを見ながら実施して下さい。

### 2. 管理作業・病害虫対策

整枝や誘引作業においては、晴天の午前中に行ってください。特に誘引作業時期には雌花の確認と草勢を見ながらの管理に細心の注意を払って下さい。加温栽培においては、保温設備の確認・点検をお願いします。

### 3. 腐敗果対策として

近年ネットの終盤戦～収穫期において腐敗果が発生しています。要因としては、湿度過多・曇天中温・空気よどみ等があります。加温機があれば強制的に作動させたり、袋かけの新聞紙などは極力小さくし傘状にかけ、過湿にならない様にする等対策を行ってください。

## 《苺》

### 1. 定植準備の実施

台風の襲来を想定し、畝作りを8月下旬までに古ビニールによるベタ掛け被覆まで終らせて下さい。

排水が悪い圃場は排水溝を深くするなど対策をして下さい。

### 2. 病害株の対策・予防

今年は雨が少なく乾燥したため、害虫の発生が多い状況です。

葉数が少ないのが防除のチャンスなので、本圃に害虫を持ち込まないように徹底して下さい。

うどんこ病も併せて防除を行ってください。

### 3. 育苗管理

最終追肥は、品種によって異なります。肥料切れにより「芯止まり」・過剰施肥により「花芽が遅れる」ことに繋がります。注意下さい。

※あと3～4週間で定植が始まってくる時期かと思えます。必ず花芽検鏡を行い、花芽分化を確認してから定植して下さい。



# 畜産 養鶏場でのネズミ対策

畜産課 新崎



ネズミ対策のポイントは、種類及びその数・行動パターンなどの実態調査とそれを基にしたネズミの住みにくい環境づくりの駆除プログラム策定です。

## 1. 環境改善

鶏舎内外のネズミの隠れ家をなくし、ネズミが住みにくい環境に改善しましょう。

- ①鶏舎周辺
  - ・定期的な清掃及び除草
  - ・鶏舎周囲の舗装
  - ・鶏舎周囲の資材の撤去
- ②鶏舎内
  - ・清掃の徹底
  - ・放置している資材を撤去

## 2. モニタリング

ネズミ駆除業者等と協力し、農場に生息するネズミの種類・その数、鶏舎内侵入口、移動ルート、営巣場所を調査しましょう。

- ・ラットラインの確認
- ・柱や筋交上のネズミの足跡の確認
- ・ネズミの糞の確認
- ・暗視カメラの設置
- ・蛍光パウダーを撒布した後、ブラックライトで足跡を追跡。

## 3. ネズミ駆除

- ・接触粉剤の使用：ネズミの移動ルート上に撒布し、ネズミの手足や体毛に付着させます。ネズミは毛繕いをする際にそれを舂めて摂取します。
- ・毒餌の配置：定期的実施。
- ・捕獲：粘着トラップ等をネズミの移動ルートに設置。
- ・侵入防止：ネズミの出入口となる穴・隙間を補修。集糞ピットを鉄板で完全に塞ぐ。鶏舎のパーコンベア引き込み口にシャッターを設置。

ネズミの捕獲数及びへい死数、また足跡や糞の有無・その量等は随時記録し、検証を行って対策を見直していくことが重要です。「対策⇒検証⇒対策見直し」を繰り返し、根気強く行いましょう。

(くみあい養鶏生産性向上ヒント集(2009年3月)参照)

# 農作業メモ



## 普通作 トビイロウンカ(秋ウンカ)の防除と大豆の管理について

農産課 酒井



トビイロウンカの初飛来が6月26日に確認されました。飛来量は少ないものの、それ以降断続的に飛来が確認されているため発生状況には注意が必要です。本年も今後はトビイロウンカ(秋ウンカ)の増殖に好適な条件になると予想されるため、以下に注意して防除を行いましょ。

- (1) トビイロウンカは増殖率が高く、低密度のほ場でも高密度となる恐れがあり、特に、箱処理剤を使用していないほ場等では注意が必要です。また、播種同時処理をしたほ場は、移植時処理よりも薬剤効果が1か月早く切れるため、定期的にはほ場の発生状況を観察し、要防除水準(7月中旬～8月上旬:20頭/100株、8月中旬～8月下旬:100頭/100株)を超えた場合、直ちに防除しましょう。
- (2) 粉剤及び液剤は、トビイロウンカが多く生息する株元に付着するよう散布しましょう。
- (3) 感受性が低下している**アドマイヤー**、**アクタラ**、**バッサ**の使用は避けましょう。
- (4) 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では、多発する傾向があるので注意しましょう。
- (5) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。また、飛散防止を徹底するとともに、危害防止に努めましょう。

## ＜大豆管理＞

品質低下の原因となる紫斑病の予防を徹底しましょう。また、莢実害虫及びハスモンヨトウを防除しましょう。なお、今年産の大豆は降雨により播種が遅れ、それに伴い生育が遅れているほ場もあります。ほ場毎の生育状況に合わせた防除を行いましょ。



## ○大豆の病害虫発生時期

	開花期 8月中旬	開花 10日後	開花 20日後	開花 30日後	開花 40日後	開花 50日後
ハスモンヨトウ	・害虫により葉が白くなり始めたら直ちに防除する。 ・発生が多くなる前の8月中旬頃の防除が重要です。					
紫斑病	・降雨が多いと多発する。 ・開花後15～50日の間に防除する。					
カメムシ類	・開花終期から子実肥大期に防除する。					

※主な防除農薬については、普通作耕種基準(P11)を参考にしてください。



# 果樹 9月の果樹園管理

営農指導課 村上



## 防除・施肥管理・栽培管理

品目	管理内容	農薬・資材名	倍数	対象病害虫
みかん	過度の水戻しは品質の低下を招きますので適切な水分管理を行ってください。早生・普通温州の浮皮対策として、ジベレリン、ジャスモメートの散布を行ってください。腐敗果は、できるだけ園外に出して処分し、腐敗果の発生防止に努める。	ナティーボフロアブル	1,500	黒点病
		スピノエースフロアブル	4,000	アザミウマ類
		ベフラン液剤25	2,000	貯蔵病害
		ベンレート水和剤	4,000	貯蔵病害
デコボン	乾燥状態に急激なかん水を行うと裂果に繋がります。少量多回数かん水を行い土壌が乾燥状態にならないようにしてください。	クレント	100	浮皮対策
		オリオン水和剤40	1,000	ハマキムシ類
		ジマンダイセン水和剤	600	黒点病
		ジュシーカル	1,000	果皮強化
梨	あきづきの収穫は満開後150～160日頃 新高の収穫は満開後180日頃	アビオンE	1,000	展着剤
		オーソサイド水和剤80	800	黒星病
柿	着果の目安として、太秋は葉果比25～30枚に1果。㎡あたりの着果数としては6～7果。西村早生では、葉果比15～20枚に1果。㎡あたりの着果数は8～9果。	アビオンE	1,000	展着剤
		スコア顆粒水和剤	3,000	炭そ病
栗	鮮度保持の為、気温の低い早朝に収穫をしましょう。			

※気温の高い日が続いております。水分補給・塩分補給等を行いながら、農作業を行いましょ。